

## 事例4 指導内容の明確化を図り、それらを確実に身に付ける指導事例

○学年 第2学年

○単元名 「武道」(剣道)

○事例のポイント

- ① 診断的評価(小テスト・アンケート)によって生徒の実態を踏まえた指導計画を立てる。
- ② 基本動作の定着をより一層進めるため、準備運動や感覚づくりの運動の内容を工夫する。
- ③ 共生に関連する指導を段階的に行うことで、一人一人の違いを認め合う態度を育成する。
- ④ 技能改善のための資料として、技能の実現状況を判断する目安と具体例を作成する。
- ⑤ 技能の確認や仲間の課題、出来映えを伝えるため、ICT端末を効果的に活用する。

### 1 単元名 「武道」(剣道)

### 2 運動の特性

#### (1) 一般的特性

剣道は、わが国の伝統的な運動文化としての特徴をもち、単に身体的な側面に留まらず精神的な要素を重んじる運動である。また、相手の人格をお互いに認め合うことや、態度面から考えて、人間形成の上で効果的な運動といえる。

剣道は、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり、相手の技を防御したりすることによって、その楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。基本動作や対人技能に必要な知識等を身に付け、さらにそれらを活用して、いろいろな人と練習や試合ができるようになると、一層楽しさや喜び、魅力が増してくる。

#### (2) 生徒からみた特性

剣道の楽しさや喜びを感じる要因	剣道を遠ざける要因
<ul style="list-style-type: none"><li>・日本古来の武道であり、日本らしさを感じるとき。</li><li>・相手の動きや技に応じて、一本を取得するところに、楽しさや喜びを感じる。</li><li>・厳粛な中に凜として、気持ちが引き締まるような感じがするとき。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・相手に打たれるというイメージが優先されることにより、痛い、怖い、けがをする等の不安を抱くとき。</li><li>・技が思うようにできないとき。</li><li>・経験者との差が歴然で、意欲に欠けるとき。</li></ul>

### 3 生徒の実態 (略)

### 4 教師の指導観

#### (1) 知識及び技能

基本動作や基本となる技の名称を確認し、それぞれの行い方を理解するとともに、生徒一人一人のICT端末に送られた示範動画を活用することで、視覚的にも動きの確認ができるようにする。また、技能のポイントを確認しながら段階的な練習を行うことで、一本(有効打突)を目指した打突となるようにする。基本となる技については、アンケートから明らかになった生徒の実態に応じ、学習指導要領解説の例示の中から、しかけ技では「二段の技(小手-面)」、応じ技では「抜き技(面抜き胴)」の2つに絞ることで、確実に技能を習得できるようにしていく。

#### (2) 思考力、判断力、表現力等

ペア学習や小グループ学習など技能習得の段階に応じて学習形態を意図的に変えながら授業を進めていく。習得した知識や技能を活用しながらお互いに技の出来映えについて伝え合う場面を多く設定する。また、示範動画と自己や仲間の動きを比較しながら課題を明確化し、課題解決学習につなげていく。

#### (3) 学びに向かう力、人間性等

ねらいの提示後、一人一人が見通しを立て、この授業ですべきことや授業のゴールをイメージすることで、主体的に授業に取り組むことができるようにする。失敗しても粘り強く調整をしながら学習に取り組めるように、体力や技能、性別の差などにとらわれず、一人一人の違いを認め合い、肯定的な声かけと矯正的な声かけを教師から生徒、生徒間で活発に行える学習環境を作っていく。

## 5 単元の目標

- (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方を理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開することができるようにする。 〈知識及び技能〉
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどができるようにする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

## 6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①剣道の技には名称があり、それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ○技能 ②基本の打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、面や胴や小手の部位を打ったり受けたりすることができる。 ③最初の小手打ちに相手に対応したとき、隙ができた面を打つことができる。 ④相手が面を打つとき、体をかかわして隙ができた胴を打つことができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②提供された練習方法から、自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。 ③体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や簡易な試合を行う方法を見付け、仲間に伝えている。	①相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。

## 7 単元の計画

- (1) 領域の取り上げ方 (略)
- (2) 領域の内容と目指す動き

学年	内容	目指す動き
1	剣道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 着法、中段の構え、体さばき、基本の打突等の基本動作を身に付けること。</li> <li>・ グループで一本（有効打突）を意識した約束練習ができるようにすること。</li> </ul>
2	剣道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生で学習した基本動作を復習するとともに、基本となる技の中から「しかけ技の二段の技（小手一面）」、「応じ技の抜き技（面抜き胴）」を身に付け、相手の構えを崩したり、相手の技をかかわしたりして打突ができるようにすること。</li> </ul>
<b>事例のポイント①</b> 学習支援ソフトで小テストとアンケートを実施し、定着不足である礼法や基本動作については復習を行い、基本となる技では生徒の実態に応じ、学習指導要領の例示の中から2つに絞って指導を行うことで確実な定着を目指す。		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループで一本（有効打突）を意識した約束練習や自由練習を行い、ルール調整を行った簡易試合ができるようにすること。</li> </ul>		
<b>事例のポイント③</b> 共生に関する指導を1、8、9時間目に段階的に入れ、最終的には、ペアやグループの仲間全員が達成感を味わえるようなルール調整を行い、楽しんで簡易試合ができるようにする。		
3	剣道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1、2年生で学習したことを復習するとともに、「しかけ技の引き技（引き面）」、「出ばな技（出ばな面）」、「払い技（払い面）」を身に付け、相手の構えを崩したり、相手の技をかかわしたりして打突ができるようにすること。</li> <li>・ グループで一本（有効打突）を意識した約束練習や自由練習を行い、ルール調整を行った簡易試合ができるようにすること。</li> </ul>

(3) 指導と評価の計画 (9時間扱い) 本時は○印 4/9時

	1	2	3	④	5	6	7	8	9
ねらい	剣道の技の名称や技術的なポイントについて理解しよう。	相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろう。	相手の動きに応じて基本の打突を打ったり受けたりしよう。	相手の動きに応じて、小手一面で一本をとろう。	相手の動きに応じて面抜き胴で一本をとろう。	仲間の課題や出来映えを伝えよう。	自己の課題に応じた練習方法を選ぼう。	全員が楽しめるルール調整を行おう。	互いに実現可能な挑戦を認め合い、簡易試合を行おう。
指導内容	・技の名称 ・基本動作や基本となる技の技術的なポイント	・礼法の意義の理解 ・礼法の行い方 ・基本動作の行い方	・基本の打突の仕方 ・基本の打突の受け方 ・一本(有効打突)	・小手一面の行い方 ・ICT端末の扱い方  事例のポイント② 基本動作を盛り込んだリズム剣道や感覚づくりの運動を帯で行うことにより、基本動作の確実な定着を図る。	・面抜き胴の行い方	・仲間の課題発見と出来映えの伝え方 ・動画の活用仕方	・自己の課題の明確化 ・学習資料の活用	・体格、体力、技能差の把握と相互理解 ・ルール調整の仕方	・全員が達成感を味わうための工夫や調整、仲間との関わり方
学習過程	1 集合・挨拶・出席確認・健康観察 2 本時のねらいと学習内容の確認 3 オリエンテーション ・授業の目標 ・約束事の確認 ・技の名称や技術的なポイントの理解 ・感覚づくりの運動の内容確認 ・共生に関する意義や価値の理解  事例のポイント③ 共生に関して「なぜこの内容が必要なのか」などの汎用的な知識の指導を行う。	1 用具準備、着装(胴・垂) 2 集合・挨拶・出席確認・健康観察 3 準備運動(リズム剣道) 4 感覚づくりの運動 5 本時のねらいと学習内容の確認  6 礼法の確認(復習) ・三礼 ・立礼 ・座礼 ・左座右起 7 基本動作の確認(復習) ・中段の構え ・送り足 ・歩み足 ・踏み込み足 ・竹刀操作 ・間合い  事例のポイント① 学習支援ソフトで小テストとアンケートを実施した結果、礼法や基本動作の知識の定着や技能の習得ができていない生徒が多かったため、2・3時間目に復習を行う。	6 基本の打突の復習と約束練習(ペア) ①一足一刀の間合い ②隙を作る(元立ち) ③隙に応じた打突(かかり手) ④残心(かかり手) 7 自由練習(ペア) ・面、小手、胴を互いに自由に打ち合う。	6 小手一面の練習 ・動き方をICT端末で確認する。  事例のポイント⑤ 示範動画を生徒の端末に送り、確認したいタイミングで観ることができるようにする。  ・約束練習(ペア) ①元立ちが剣先を上げた瞬間に小手を打つ。 ②元立ちが後退した瞬間に一歩踏み込んで面を打つ。 ※ペアで反復練習	6 面抜き胴の練習 ・動き方をICT端末で確認する。  事例のポイント④ 技能改善のための資料として、技能の実現状況を判断する目安と具体例を作成し、生徒に示す。  7 簡易試合(グループ) A 対 B CD 審判 E 動画撮影 ※ローテーション	6 打ち込み練習(ペア) ・かかり手は元立ちの動きに応じて小手一面もしくは面抜き胴を打つ。 ※ペアで反復練習 7 簡易試合(グループ) A 対 B C D 審判 E 動画撮影 ※ローテーション ※仲間の課題や出来映えを伝え合う。  事例のポイント⑤ 示範動画と仲間の動画を比較したり、仲間の動画をコマ送りすることで、課題や良いところを見つけやすくする。	6 課題の設定と課題別練習 ・足さばき ・竹刀操作 ・基本打突 ・間合い、かけひき ・基本となる技 ・自由練習など 7 グループ学習 ・グループで課題解決に取り組んだ成果を見合う。 ・見てもらいたいポイントを伝える	6 ルール調整 ・グループ内簡易試合に向け、対戦相手ごとにルール調整を行う。 例)・技の制限 ・2対1 ・攻撃の時間制限 7 簡易試合 ・グループ内総当たり戦 ・試合時間は1分 ・勝敗は審判3人によるポイント  事例のポイント③ 1時間目で学んだ共生について再確認を行い、簡易試合で対戦相手ごとに体力や技能、性別等の違いを踏まえて、ルール調整を行う。	事例のポイント③ 1・8時間目の学習を生かし、すべての生徒が達成感を味わえるように自ら工夫や調整の仕方を考え、行動化する。
	4 着装の仕方と準備運動(リズム剣道)の復習 5 集合・健康観察・整理運動 6 学習のまとめと振り返り 7 次時の予告 8 挨拶・片付け	8 集合・健康観察・整理運動 9 学習のまとめと振り返り 10 次時の予告 11 挨拶・片付け							
評価計画	知・技	①		②		③			
	思・判・表態						①		②
	方法	観察・カード	観察	観察・ICT端末	観察・ICT端末	観察・ICT端末	観察・カード	観察・カード	観察・カード
	場面	3、6	6、7	6、7	6、7	6、7	7、9	7、9	6、7、9

## 8 本時の学習と指導（4／9時）





### (1) ねらい

- ・最初の小手打ちに相手に対応したとき、隙ができた面を打つことができるようにする。

（知識及び技能）

### (2) 準備（略）

### (3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導 ◆評価規準）
導入	<p>1 用具の準備・着（胴・垂）</p> <p>2 集合・挨拶・出席確認・健康観察 ・挨拶は正座で黙想後、礼を行う。</p> <p>3 準備運動（リズム剣道）</p> <div data-bbox="582 548 734 638" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">リズム 剣道</div>  <p>4 感覚づくりの運動 ・物干しざお素振り・スローイン素振り ・正座素振り ・手刀かけひきゲーム ・スポンジ送り足 ・スポンジ踏み込み足</p>  <div data-bbox="491 795 678 884" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">感覚づくり の運動</div> 	<p>○速やかに胴と垂をつけるよう指導する。</p> <p>○左座右起ができていないか確認をする。</p> <p>○リズムに乗って基本動作が行えるよう声掛けをする。</p> <p>○基本動作を習得するために必要な運動であることを理解させ、それぞれの運動を正しい動作で行えるよう声掛けをする。</p> <p>○全体を巡回し、つまづいている生徒に指導する。</p> <div data-bbox="699 801 1433 1019" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント② 準備運動は、音楽に合わせて竹刀操作、体さばき、充実した氣勢、残心を盛り込んだリズム剣道を行う。感覚づくりの運動は、竹刀操作、体さばき、間合い・かけ引きの3つの感覚を養う内容を盛り込み、帯で実施することで全ての生徒が基本動作の習得を目指す。</p> </div>
展開	<p>5 本時のねらいと学習内容の確認</p> <div data-bbox="276 1097 1380 1160" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">相手の動きに応じて小手一面で一本をとろう。</div> <p>6 小手一面の練習 &lt;動き方の確認&gt; ・示範動画をICT端末に映し出し、動き方の確認を行う。 &lt;約束練習（ペア）&gt; ・最初は一斉に同じタイミングで行う。 ・太鼓の合図でポイントごとに動きを止めて間合い、竹刀操作、姿勢等の確認を行う。 ・ポイントの確認後、反復練習を行う。</p> 	<p>○ねらいと学習内容の確認後、見通しがもてるよう生徒に投げかける。</p> <p>○動画で動きの確認を行う際、動き方の理解が深まるよう技能習得のためのポイントの説明を交えながら指導する。</p> <p>○周りの安全に留意しながら活動させる。</p> <p>○巡回を行い、動きを止めた際、間合いの浅さ深さや打突部位に物打が刃筋正しく当たっているかを確認する。</p> <p>○上記の内容について、ペア同士でも確認するよう声掛けをする。</p> <p>○反復練習中に示範動画をICT端末で確認しながら取り組むよう指導する。</p> <div data-bbox="758 1579 1428 1691" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント⑤ 動画を一時停止して、竹刀操作や体さばき等ペアで確認することで、習得すべき動きを明確にする。</p> </div> <p>○礼に始まり、礼に終わることを徹底するよう声掛けをする。</p> <p>○判定は「技能を判断する目安と具体例」を参考にして判断するよう指導する。</p> <p>○ローテーションを素早く行い、簡易試合が1回でも多くできるようにする。</p> <div data-bbox="861 1899 1433 2033" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆最初の小手打ちに相手に対応したとき、隙ができた面を打つことができる。（観察・ICT端末）【知識・技能】</p> </div>
	<p>7 簡易試合（グループ） ・小手一面を活用した試合を行う。 ・礼→はじめ→試合→判定→礼の順で行う。 ・試合時間は1分間。 ・試合をする2人以外の班員で動画撮影と審判の分担を行う。 ・判定は、試合終了後にどちらが優勢であったかを判断する。 ・班員の一人は動画を撮り、撮影した動画は、学習支援ソフト上に提出する。</p>	

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">簡易試合の立ち位置（上がステージ）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">C 審判 A ○ × ● B</div> <div style="text-align: center;">D 審判</div> </div> <p style="text-align: center;">E 動画撮影</p> </div>	<p>△努力を要すると判断される状況(C)の生徒への指導の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画等で再度確認し、コマ送り動作で段階的に小手一面に取り組むことができるようにする。</li> </ul> <p>◎十分満足できると判断される状況(A)の生徒の具体的な姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・打突と体さばきの技能が発揮され、一連の動作が途切れることなく、スピード感のある小手一面が行われている。</li> </ul>
<p>事例のポイント④ ※下表参照 しかけ技、二段の技、「小手一面」の実現状況を判断する目安と具体例を作成し、生徒に示す。生徒一人一人が、自己の技能の状況をこの表から判断し、技能改善を進めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○素早く集合できるよう声かけをする。</li> <li>○体調不良者やけが等の確認を行う。</li> <li>○教師と生徒で本時の学習をまとめる。</li> <li>○ねらいに正対した振り返りができるように確認する。</li> <li>○次時の見通しがもてるよう説明する。</li> <li>○左座右起を確認し、片付けを見届ける。</li> </ul>
<p>8 集合、健康観察、整理運動</p> <p>9 学習のまとめと振り返り</p> <p>10 次時の予告</p> <p>11 挨拶、片付け</p>	

しかけ技、二段の技「小手一面」の実現状況を判断する目安と具体例  
評価規準（技能④）：最初の小手打ちに相手に対応したとき、隙ができた面を打つことができる。

基本的な運動課題	実現状況	判断の目安	具体例（特徴的な動き）
中段の構え 体さばき 基本打突(小手・面) 相手の構えを崩す	十分満足 (A)	打突と体さばきの技能が発揮され、一連の動作が途切れることなく、スピード感のある小手一面が行われている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中段の構えから初段の小手を打突した勢いで相手の構えを崩している。</li> <li>・初段の小手を打突した勢いで手元が引き上げられ、二段目の面が相手の打突部位に当たっている。</li> <li>・右足の踏み込みと左足の引き付けが二段の打突に合わせて行われている。</li> </ul>
	おおむね満足 (B)	打突と体さばきの技能がおおむね見られ、小手一面が一連の動作として行われている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中段の構えから初段の小手を打突した勢いで相手の構えを崩している。</li> <li>・初段の小手を打突した後、二段目の面を打突している。</li> <li>・体さばきでは、打突時に右足の踏み込みや、左足の引き付けがおおむねできている。</li> </ul>
	努力を要する (C)	小手と面の打突をしようとする姿勢は見られるが、小手と面が途切れており、相手を崩すことができない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初段の小手を打突しても相手の構えが崩せない。</li> <li>・中段の構えができていない。</li> <li>・小手一面の動作が途切れている。</li> <li>・初段の小手を打突した後、二段目の面を打突しようとしているが、相手の打突部位に当たっていない。</li> <li>・体さばきでは、打突時に右足の踏み込みが浅く、ずれが生じていたり、左足の引き付けが足りない、もしくは遅い、腰が引けているなどの課題がみられる。</li> </ul>

【「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立て（小手一面の例）】

- 知識の習得状況を確認し、汎用的な知識と具体的な知識を結びつける指導を行うとともに、基本動作（構え・体さばき・基本の打突）がタイミングよく調和され、一体となって動くことができるようになるため、感覚を養う動き方の指導を行う。
- ① 手刀で体さばきとタイミングを合わせながら小手と面に分け、段階的に基本動作（構え・体さばき・基本打突）の指導を行う。
- ② 手刀から竹刀に切り替えて小手一面の動作がゆっくり正確にできるように指導する。
- ③ 小手一面を行う際、打突の瞬間に動きを止め、竹刀操作と体さばきの修正を行う。
- ④ 初段の小手で相手を崩すことを意識させながら、一連の動作で小手一面が行えるように指導を行う。